


ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.39 2015年2月12日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804
URL: <http://www.seikei-seminary.org/> E-mail: covenant-seminary@nifty.com

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。立春を過ぎ、夕暮れが遅くなってきました。殊更寒かった冬の終わりに先取りしたいことばの数々は、春一番、どこかで春が生まれてる、^{はくもくれん}白木蓮のつぼみ、^{ろうばい}臘梅の甘い香り、豪華な椿の花、曾我の梅祭り、夜更けの東天にうしかい座アークトゥルス... 五感を働かせて存分に味わいたい、早春の息吹です。

「神は仰せられた。『光る物が天の大空にあって、昼と夜とを区別せよ。しるしのため、季節のため、日のため、年のためにあれ』」(創世記1:14)。

校長 関野祐二

● ワタシは観ていない!?

ああしまった、と嘆いても後の祭り。あれは1月中旬、金曜夜のことでした。折からラブジョイ彗星(正式符号 c/2014 Q2、Lovejoy とは発見者の名前。ステキですね)が地球に接近し、目黒からでも何とか双眼鏡で見えると確認済み。新約クラスでは事前に太陽系軌道を描いてのレクチャー、お隣の霊性クラスにも声をかけ、千載一隅の観望チャンスを玄関先で提供しました。たんぼぼの綿毛が闇夜に浮いているような光景で、「見えますよね!」との語気に押されて「は、はい」と半信半疑の学生たち(信仰による先取り?)。ところが嗚呼、第三教室の旧約釈義クラスを忘れていたのでした。気がついた時にはラブジョイさん校舎の陰。平謝りにお詫びしたものの、何とか見せてあげたいとの思いが募り、数日後リベンジ観望会をチャペル後にアピールしました(どういう神学校だ?)。夜授業後ですから時刻は21時半。数名が防水カンパキの屋上に参集し、プレアデス、オリオン大星雲などの特別メニューをオードブルに(贅沢!）、先日より少し北に移動したらラブジョイ彗星をメインとしてお見せしました。透明度最良で、都心とは思えぬコントラスト。某兄弟の雄叫びが中目黒五丁目に響き渡り、慌てる一幕も。ともあれ、八千年後と言わずに見せることができよかったです。そう、求めなさい、そうすれば与えられます、ですよ。

● 牧会マインド or ドクターマインド

毎年のことながらこの時期は、本館2階の廊下を行き交う在校生もどこか気ぜわしく、季節も心も春を待ち望んでいる様子。後期授業が残り一ヶ月のまとめに入り、発表レポートに追われる現実や、卒業・進級・編入・終了などの節目を迎えていること、学びが続く方々は新年度の履修科目をどうするか、思案中だからでしょう。恒例の希望者制個人面談も1月中旬から始まりました(昨年から校長室はエアコン完備で冬も快適。望遠鏡置き場は癒し空間)。我が役目は在校生の学びと生活のカスタマイズお手伝い。卒業までの年数、お仕事の拘束時間、経済(〇〇〇ミクスじゃないヨ)、教会奉仕、家族、年齢(徹夜は可能!?)、将来の働きやビジョンなど、パラメータ(媒介変数。結果を左右する変動要素)が多いので、いくら理系出身でも連立方程式を解くのは

たいへん。どれを優先項目とするかいっしょに考えます。祈祷課題を聞いて祈り、30分はあっという間。廊下での挨拶や声かけもたいせつだけど（授業前後になるべくそうしています）、時間空間をわずかでも共有し、向かい合って「学びの様子はどうですか？」と聞くのも得がたい恵み。こんな光景どこかにあったなと考えてみたら、そうそう、お医者さんの定期健診でした。我が聴診器は聖書かな。ふと自分が開業医になって、「どうなさいました？」と尋ねている幻を見ました。

● さわやかで快適な環境を目指して

なにやら自治体広報の見出しみたいな文言ですが、ようするにトイレ改修の話です。寒い、少ない、狭いと、三拍子揃った（自慢することじゃないですね）本館一階の（特に女子）トイレ。元々、全寮制でスタートした建物なので、三階の女子寮にはそれなりに数があるのですが、一階はブース二つのみ。チャペル横に申し訳程度の一人用。卒業式で140名もの出席者が来校された時、いったいどういうことになったのか、その悲惨な現実を片隅に追いやってはいましたが、考えただけでも恐ろしいことです。何年も前より在校生から悲願の叫びが上がり（まるでエジプトのイスラエル？）、防水工事などとのせめぎ合いを経て優先順位を徐々に上げ、いよいよ現実化しそうな状況。寮やチャペルにエアコンを付けた時も、ようやく一般の標準に達しただけなのに、妙にうれしかった記憶がありますけど、今回はどうでしょうか。古い凶面を発掘したり、用途不明の分電盤や意味不明の配管に頭を捻ったりで、けっこうおもしろい準備作業ですよ。もちろん場所が場所だけに、事務員の伴侶と女子寮主事のY先生が常に同行。女子寮には「主の祈り」ギリシャ語版が貼ってあるそうですが、こちらは「十戒」のヘブル語版でも貼りましょうかね。

● 入試終了タイム、卒業式キャパ、入学式フォト

二月に入ると心配になるのがこの三つ。まずは3月の入学試験当日、面接が何時に終わるかで。聴講生面接と正規生筆記試験を並行して行い、採点后に編入も含めた正規生面接へ突入。おっと専門科への進級面接もありました。緊張して面接に臨む受験生には不謹慎な物言いですが、タフで知られる（病欠めったになしで休講は望み薄）運営委員三名も、さすがに面接を連続で行うと午後六時頃から疲れが出始めます。午後七時には意識が薄れ、八時にはもはやフリーパス（！？）。感謝なことに今年度もそれなりの受験者数になりそうですし、聴講から正規生への編入も多いので、夕食付きで七時は堅いかな（新約クラスは「どうせなら休講に」と今から大合唱）。次に心配なのは卒業式の出席者数です。卒業生数は昨年ほどではないので、キャパシティは大丈夫かと思うのですが、百名を超えると（トイレキャパも）かなり苦しいのです（でも、ぜひ来てくださいね）。そして入学式。記念写真に何人収まってくれるか、入学者数が心配なのです。超広角レンズが必要なほど（写真担当のP先生はすでに買ったみたい）、たくさんの方々をお迎えしたいですね。この時期、レポートの仕上げや成績を気にする毎日過ごす在校生には、ずいぶんのんきな心配事だな、と笑われそう。学生会の皆さん、卒業式入学式のお手伝いよろしくね。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 卒業を控えた方々の学びと卒業後の働きが祝福されるように。在校生の後期授業（3月14日終了）が最後まで守られ、新年度に向かって良き備えが出来るように。
- ・ 3月6日の入学試験に向けて、4月より新たに学ぶ献身者が多く与えられるように。
- ・ 本校の運営が支えられ、主にある献身者育成の使命を果たすことができるように。